「取引先からの引き合いがあった」、「他社との差別化が可能となった」、「コスト削減により優位性が確保できた」、「販売増が期待できる」、「より高性能な製品開発に成功した」等の声が聞かれ、多くの企業が本事業の活用による効果を実感しています。

本会では、平成25年度補正も、地域事務局として円滑な事業推進を支援するとともに、今後も会員の皆様に対し各種支援施策等有益な情報の提供に努めます。

【ものづくり補助金に関するお問い合わせ先】 秋田県地域事務局（☎018－874－9443）

平成25補正事業　採択事例紹介

秋田協同印刷株式会社　（製造業）

【テーマ】新しい付加価値を提供する超短納期一貫印刷ビジネス事業の拡大

【担当者より】

デザインから配送まで超短納期ニーズを持つお客様に対し、競争力の高い付加価値を有する印刷ビジネス事業を拡大します。

【CTPセッター】

協同組合秋田市民市場　（卸・小売業）

【テーマ】オールインワン型最新発泡スチロール減容機導入

【担当者より】

循環型社会構築への取り組みを広くアピールすることで、イメージアップを図り売上増加に繋げていきます。

【発泡スチロール減容機】

※ミラサポHP「補助金虎の巻」において、ものづくり補助金の申請のポイントや全国の採択事業者活用例が紹介されておりますので、是非ご参照下さい。
https://www.mirasapo.jp/features/subsidy/vol1/index.html

景況レポート

（9月分・情報連絡員80名）

製造業DI値が21.8ポイント悪化

～コスト上昇により売上、収益ともに悪化～

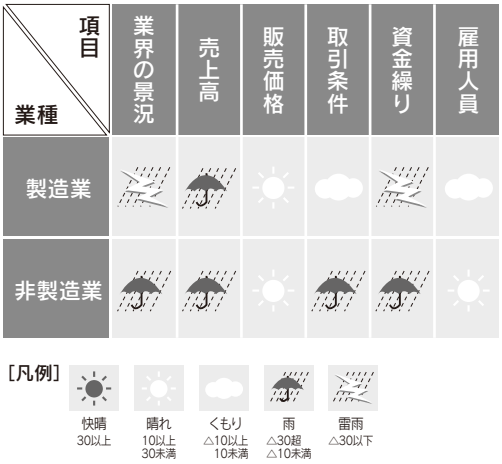
【概況】9月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが11.3%（前月調査12.5%）、「悪化」が42.5%（同41.3%）で、業界全体のDI値は－31.2となり、前月調査と比較して2.4ポイント下回った。県内景況は、一部の業種では季節的要因等により業況が回復しつつあるものの、依然として原材料や燃料の高騰による影響が大きく、売上、収益ともに悪化しており、業界全体のDI値は4ヶ月連続して前月を下回った。今後とも県内景況の動向を注視していきたい。

前月との比較（景況DI）

	8月	9月	増　減
製　造　業	－18.8	－40.6	－21.8
非製造業	－35.4	－25.0	10.4

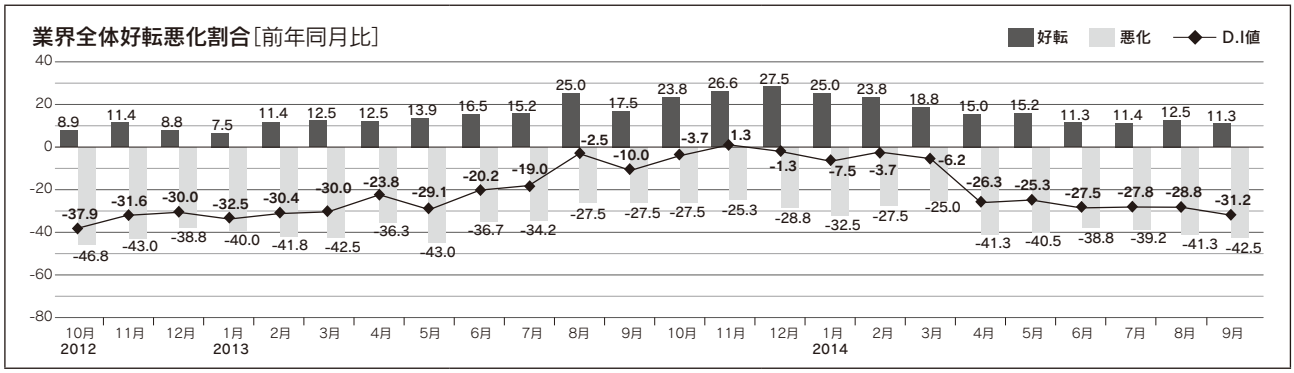
製造業のDI値は、－40.6となり前月比で21.8ポイント悪化。機械金属と鉄鋼では、前月同様に民間・公共公事ともに受注が増加しており、平成26年12月分までの受注量を確保している状況。一方、食料品、繊維工業では、円安の進行等の影響で、原材料価格と燃料価格が上昇しており、収益状況が悪化している。

非製造業のDI値は、－25.0となり前月比で10.4ポイント改善。商業卸や古紙では、消費税増税の影響による個人消費の低迷で、前年同月比で売上が減少した。一方、型枠工事では、前月同様に民間・公共工事ともに受注が増加しているものの、人材不足や雇用環境の改善が課題となっている。また、運輸業では、引越しや平成26年産米の輸送等で輸送量が前月比で増加した。　（回答数：80名　回答率：100%）



［天気図の見方］前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。



業界の声	
食料品 （パン）	前月と比べ天候が安定していたが、スーパーで販売されている商品の売上が伸びず、原材料費の高騰もあり収益状況が悪化している。また、円安の進行により更なる原材料価格の上昇を懸念している。
繊維製品	紳士服は、燃料価格の上昇や円安の影響による原材料価格の影響でコスト増となり経営を圧迫している。一方、婦人服は、デザインや素材の変化への対応に苦慮しており、今後、生産数や売上に影響が生じる恐れがあるため、早期に対応していきたい。
木材・木製品 （一般製材）	原木在庫量は、10,683㎥（前月10,680㎥）で前月比3㎥の微増、製品販売量は3,178㎥（同3,781㎥）で前月比603㎥の減少となった。依然として、稼働日数が少なく推移し、景況の好転を感じられない。
印刷	平成26年10月に本県で開催される国民文化祭の仕事が落ち着いてきたため、前年同月比で景況に大きな変動はない状況。なお、今後も円安による諸材料の値上がりが懸念される。 （県南地区）
窯業・土石 （生コンクリート）	9月の出荷数量は、前年同月比98.9%となり、4月～9月の累計で前年比100.1%となった。なお、本県全体として大型物件はあるものの、消費税増税前の駆け込み需要の反動減により、能代山本地区や男鹿南秋地区の出荷数量の落ち込みが目立っており、今後は、前年同月を下回るものと予想される。
鉄鋼・金属 （鉄鋼）	前月と同様に民間工事、公共工事ともに受注が増加しており、各社とも11月～12月頃までの仕事を確保している。
一般機械	受注動向は上向き傾向にあるが、原材料価格が上昇し、収益が悪化している。なお、原材料の値上がり分を販売価格に転嫁できるかが今後の課題である。
その他の製造業 （漆器）	9月は、前年同月比で売上は横這いに推移したが、平成26年10月に開催される国民文化祭の宣伝効果により、産地が活性化してきている。また、国民文化祭の応援事業である「第22回川連塗りフェア2014」が湯沢市で開催され、多くの集客が見込めるため、売上増加に期待したい。
卸売（商業卸）	9月は、消費の低迷により日用雑貨や文房具事務用品関係は前年同月比で売上が減少した。一方、包装資材や建具関係は、前年同月比で横這いに推移した。
小売（自動車）	9月の新車販売台数は、登録自動車が2,624台（前年同月比103.1%）、軽自動車が2,620台（同91.5%）、合計5,244台（同96.9%）であった。なお、平成26年4月の消費税率引き上げ以降、登録自動車は前年同月比でマイナスが続いていたが、6ヶ月ぶりに前年同月比で増加に転じた。
小売 （電機販売）	天候の影響により、FF式給排暖房機を中心に売上が増加傾向にある。また、季節的要因から、フルシーズン用エアコンの需要が高まると予測しており、売上増加に期待したい。 なお、映像機器に関して業界では、4Kテレビの販売動向を注視している。
商店街	秋の冷え込みによる秋物商品の売上増加に期待感があったが、前年同月比で売上が減少した。なお、平成26年10月は国民文化祭やゼロダテ展が開催され、来街者の増加による売上増加が期待される。また、まちゼミの開催を軸にして景況の好転を図りたい。（大館市）
サービス （旅行）	国内旅行の売上は、前年同月比100.0%と横這いで推移した。一方、海外旅行の売上は、前年同月比84.0%で推移した。なお、米価の値下がりや電力買い取り制度問題、諸物価の値上がり等、業界にとって不安材料が山積している。
建設業 （型枠工事）	前年同様に、大規模及び中規模RC物件の進捗により、各社繁忙となっている。また、9月下旬は農繁期と重なったため、一部で現場作業員の不足が生じた。なお、近年は、現場作業員の健康維持のため、残業や休日出勤を減らす傾向があり、全体的に工期の延期が現場で見受けられ始めている。
運輸業 （トラック）	9月は引越しや米の輸送等で各社とも繁忙となり、前月比で輸送量が増加した。また、ガソリン価格は依然として高値安定で推移しているが、軽油価格は、前年同月比で2円50銭の値下がりとなっている。
その他の製造業 （砂利採取）	路盤材関連の出荷量が前年同月比で増加した。一方、生コン用骨材が前年同月比で減少したため、全体として前年同様の荷動きで推移した。（県南地区）